

タヌキの小道

茨城県下妻市建設部都市整備課

1. はじめに

下妻市は茨城県の南西部に位置し、東京から約60km圏に位置しています。東西に国道125号線、南北に国道294号線が通り、市東部には一級河川小貝川、市西部には一級河川鬼怒川が流れています。海から50km以上離れているため、やや内陸型の温暖な気候です。

市内には大小12の都市公園があり、今回紹介するのは、市東部にある小貝川ふれあい公園です。小貝川ふれあい公園は、昭和61年に台風の影響で小貝川が氾濫し、地域住民が水害の被害にあったことから昭和62年に小貝川のイメージアップを図るため、建設省下館工事事務所（現国土交通省下館河川事務所）にて小貝川を花で結ぶ「フラワーベルト構想」が進められ、これを受け下妻市においても0.6haの花畑を造成したところから公園整備が進められました。約28.2haの公園内にはポピー等のフラワーゾーン、自然観察ゾーン、スポーツゾーンなどがあり平成6年に完成し、地域住民の憩いの場として親しまれています。

公園の管理棟であるネイチャーセンターは上空から見ると国蝶オオムラサキが羽を広げた形をしているシンボリックな建物です。

ネイチャーセンター内では公園内に生息している動植物や建物のモデルとなったオオムラサキなどが展示されています。

オオムラサキの森と名づけた自然観察ゾーンでは初夏になると森の中を国蝶オオムラサキが飛び交い、スポーツゾーンでは年間を通して野球サッカー



オオムラサキを模ったネイチャーセンター



約300万本の花々と筑波山



子ども広場



バーベキュー場



下妻市位置図



小貝川ふれあい公園

ソフトボールが行われ、フラワーゾーンでは春にはポピー等、秋にはコスモスが咲き乱れます。

パークゴルフ場やバーベキュー場のあるピクニック広場への連絡道は、平成7年度に木造構造で整備され年間約2万人の方々に利用されていますが、設置高が低いため小貝川の水位上昇に伴いピクニック広場が利用できても連絡道が利用できない状態が生じており、課題となっていました。

2. 整備経過

こうした状況下、老朽化した連絡木道に代わる通路の設置を、関係機関にお願いしていたところ（財）リバーフロント整備センターが（財）日本宝くじ協会の助成を受けて行っている「水辺施設の設置事業」として整備をしていただきました。河川区域内ですので、他所からの土の搬入は出来ませんが、国土交通省下館河川事務所の協力を得て、河川からの浚渫土を再利用した盛土構造での新連絡道が、平成22年2月完成しました。

3. 施設説明

今回整備していただいた水辺施設『タヌキの小道』は延長48m、歩道幅2.8m、最大地上高2m、底部には三日月池への流入を確保するためヒューム管敷設の盛土築堤構造になります。

今までの木製と違って腐食の心配は無く、また、水没しても土のため痛むことは少なく、法面は平均傾斜を25度と緩やかにして筋芝工を施し、景観と強度の両立を図っています。芝が伸びれば子供たちの絶好の遊び場になるでしょう。安心して渡ることが出来る通路が出来た事により、今まで以上に利用者の増加が見込まれます。

水辺に親しみ水辺と触れ合う。この恵まれた水辺環境を守り、維持発展させ、永く親しんでいきたいと思えます。

おわりに本事業に際して関係された皆様方に厚く御礼申し上げますと共に、本公園に対し今後ともご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。



パークゴルフ場



小貝川増水時の旧連絡木道



新連絡通路『タヌキの小道』(写真左)